

令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会
第3回 エンディングノート作成部会

- 1 日時 令和5年10月12日(木) 19時15分～21時00分
- 2 場所 静岡市役所静岡庁舎 新館3階 茶木魚
- 3 出席者 (出席) 岡 部会長、金原委員、坪井委員、成島委員、平野委員、
河西委員、近藤委員、中村(敬)委員、中村(美)委員
関係者：間淵委員、浅利委員、稲葉委員、坪川委員
(事務局) 地域包括ケア・誰もが活躍推進本部 酒井次長
在宅医療・介護連携推進係 森川次長補佐、北原主任保健師
白鳥主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 次第 (1) 開会
(2) 議事
エンディングノートの内容の修正等
(3) 閉会
- 6 会議内容
(1) 開会 開会宣言及び会議成立の報告
(2) 挨拶
(3) 議事

平野委員

最初のページの「(仮称) エンディングノート～これからの人生のために～」という表題は、このままでいいのか。

5ページの「自分の基本情報」のところに、家族欄が欲しい。ただ、ケアマネジャーの位置をどこにするかはこれから検討していかなければならない。

常備薬の項目に関して、お薬手帳を添付するような場所を設けるのはどうか。特に、ICとか電子媒体だと更新が出来るが、記入したときに、お薬手帳のコピー等を貼り合わせていくという方法もある。1度書いたら、変更出来なくなるので、添付出来るような箇所を入れたら良い。

8ページの「緊急連絡先一覧」の項目は、非常に大事なところで、緊急連絡する順位の記

載欄もあると良い。また、住所欄よりも電話番号の欄をもっと広く見やすくした方が良い。

9ページの「もしもの時の医療の希望」ということで、文言のところに「もし、あなたが重病になると、あなたに病名や余命を告知するか、延命処置を行うか誰かが判断しなければならないときがあります。そのときのために記入しましょう。」とあるが、「もしもの時にあなたに病名や余命を告知しなければならない時や、延命処置等を行うかどうかの判断をお願いする時があります。その時のために記入しましょう。必ず主治医（かかりつけ医）等と一緒に考えて参りましょう。」という案が出た。

3段目の「経口摂取以外での栄養摂取」の項、チェックボックスの「点滴による栄養摂取の処置を希望する」というところは、「栄養摂取『中心静脈栄養(カロリーの高い点滴栄養)』と具体的なコメントを入れてはどうか、「経鼻経管栄養摂取の処置を希望する」というところは、「経鼻経管栄養摂取(鼻からチューブを入れて栄養剤をいれる)の処置を希望する」と具体的にわかりやすく文言を入れたらどうか、「胃ろう」のところは、「胃に直接栄養チューブを入れるような処置」とわかりやすくしてはどうか、という意見が出た。「判断を任せたい」のところは「判断をご家族や大切な方に任せたい」と、誰に任せるかというところをもう少し入れてみてはどうか、という意見が出た。

26ページの「(仮称)終活ハローページ」のところは、この文言が良いのか、見直したい。

河西委員

エンディングノートの名称に関しては、違う名称が良いのではないかと。手に取りやすく、見やすいところに置いてあっても差し支えないような名称が良いのではないかと。

5ページの「自分の基本情報」に関しては、順番や内容など、もう少し考えた方が良いでしょう。お薬のところは、お薬手帳や、医薬品情報の紙など、新しいものが入るような形にしたほうが良いのではないかと。

12ページの「預貯金」に関しては、坪川委員より法律の観点から、実際、何かあった場合には、家族が銀行に問い合わせれば、口座番号はわかるので、金融機関名くらいまででもよいのではないかとということと、13ページの「各種契約先」のところは、現物が送られてくるものは止めることが出来るが、ネット上の契約はIDとパスワードがないと、解約出来ずにお金が落ちていってしまうケースが散見されるため、ネットの情報契約の内容もここに書いたほうが良いのではないかと、11ページに「自分で財産の管理ができないときに管理をお願いしたい人」というチェックリストがあるが、相続の優先順位になる訳ではないので、相続とはまた別に、ここにチェックを付けることは差し支えないが、そこが合わなかったときに、家族のトラブルになる可能性があるため、これが財産管理に関する契約ではなく、介護の希望のものであるということをも明記した方が混乱しない、という意見をもらった。

岡 部会長

意見、質問等あるか。

金原委員

エンディングノートは、自分が亡くなった後のことを書くものと思っていた。これを書くときに、今までの考え方ではなく、これから自分が向かっていくことだと理解してもらえることを広めるようにしてもらいたい。

坪井委員

9ページの「経鼻経管栄養」や「胃ろう」というのは、いろいろな方が見てもわかるような言葉の方が良い。言葉の部分は検討したい。

平野委員

8ページの「緊急連絡先一覧」と11ページの「判断を任せたい人」のすみ分けだが、まとめてもよいが、どういう重みをつけるのか、例えば病院に搬送されたときやケアマネジャーが初めて見たときにどちらを見るか。「介護の希望」のところに「判断を任せたい人」をつけるか。「緊急連絡先」と「その他」にはどちらかを入れてもよいと思うが、病院職員やケアマネジャーはどちらを見るのかと思ったので、これから決めていけばよいと思う。

金原委員

「エンディングノートを家族にどのように知らせるか」ということがないと引き出しに入ってしまったままとってしまう可能性が大きくなってしまいますので、この中に、家族にある程度私は考えていることがあるからと、書いた方がいいのではないか。

間淵委員

エンディングノートを家族と一緒に作るというが、家族がいない方もいる。そこは忘れないように作っていかなくてはならない。緊急連絡先も家族ばかりではない。銀行でも、遺言を作ってそれを保管するという仕事をしているところがある。亡くなった際等の緊急連絡先を一人だけ決めておいてくださいと言われていたりするので、必ずしも緊急連絡先が家族ばかりではないことを踏まえながら、どのように表現したらいいのかというところと、「判断を任せたい人」というところをどのように考えていったらいいのか、これらをふまえて考えていかねばならないと感じた。

「預貯金の番号」の記載欄があるが、最初にそのことを質問で出した時に、厚生労働省の優先項目なので入れていると事務局より回答があった。だが、トラブルになる例は見えてきているので、その辺は遺言の作成を進めるような方向で、ここに書くのは家族や後見人が銀行に問い合わせればわかるので、口座番号まで記載するのはどうかという思いがある。

中村（敬）委員

9 ページの「もしもの時の医療の希望」の部分だが、この辺のことを家族がネット等で調べていることがあるが、事前に本人が判断できればよいと強く思っている。なるべくこのままで、何かレイアウトで、自分が印刷したものを貼り付けるだけのページがあるとよい。

<チームに分かれディスカッション（30分程度）>

平野委員

6 ページの「かかりつけ薬局」の後の「その他」の所は、介護保険のサービスを書くよう「利用サービス」としたほうが分かりやすい。「常用薬」のところは、書くよりも、紙で貼っていくようにしていったほうが、個人も貼りやすいし間違いもない。「持病」と「既往歴」に関しては、通院中にマルとか治療にマルということを持病と既往が一体になるような文言のものがよい。

7 ページの「その他」に関しては、気になることが書けるフリーな欄はそのまま置いときたい。

8 ページの「緊急連絡先一覧」に関しては、独り者の場合は、例えば生活保護を受けている方は生活支援課や担当者名、連絡先を書く等、3人に絞って書けるようにしたい。ジェノグラムに関しては、書き方も含めて具体例のようなものを横に入れたい。

9 ページの「判断を任せたい人」の項目だが、先程の「緊急連絡先一覧」の3名の欄と同様に3人の名前を書けるようにし、そこに3人書いてもいいし1人書いてもいいとし、その人によって判断を任せるということで、3人分書けるようにしたらどうか。

11 ページの「介護の希望」の「判断を任せたい人」も同様に3名かけるような形で電話番号を優先に、間柄を書いてもらうようにし、住所については8ページの方に住所を書いて、こちらは書かなくてもいいかもしれない。連絡先、間柄がわかればよい。

河西委員

エンディングノートの名称に関しては、「終わり」「最後」というイメージよりは「これから先どうしていくか」など楽しく感じる前向きな題名にしたほうがいいのではないか。

5 ページの「自分の基本情報」に、「公的情報」で「マイナンバー」などあるが、ここはなくてもいいのではないか。「自分の基本情報」のところに「家族の情報」も書いてよいのではないか。ここの順番だが、「ケアマネジャー」を後ろにして「医療」のほうで、「かかりつけ医」、「かかりつけ薬局」ときて、「ケアマネジャー」または「地域包括支援センター」というようにして、「その他」のところには「介護事業所等」というのもあるし、成年後見人という場合もあるので、「その他」に括弧づけて書いてほしいような内容のコメントを入れたほうが書きやすいのではないか。「常用薬」のところはルーズリーフタイプにすることなので、薬局で医薬品情報の紙を毎回必ず渡すのでそれをファイルするという方法

もあるのではないか。お薬手帳は途中の物は本人が持ち歩いてしまうので、薬情を挟み込むほうが厚くならなくてよいのではないか。

「緊急連絡先」に関しては、めくらなくても見えるところにしたほうが、混乱がない。また、優先順位が高いものから上に書いていくような番号がついていたほうがいいのではないか。

「自分史」以降は、書くようにしてもいいし、自分がパソコンで打ったものがあるようならば貼り付けるとか挟み込んだ形でも使えるようにしてもいいのではないか。「終活ハローページ」以降は別冊にして、エンディングノートはエンディングノート、参考資料のところは別冊の参考資料のような形にして事務局の方で令和6年版、令和7年版というように新しく作っていただいたものを入れ込む形にして、なるべくエンディングノート側は薄くして情報側は別紙にしてもいいのではないか。

成島委員

細かく書かないと伝わらない、細かく書くとわかりにくくなる等の両方の兼ね合いが難しい。例えば、ある程度分かりやすい言葉で書いて、それ以降詳しく知りたかったらQRコードなどをつけておいて、そこから積極的に調べるという人ならば、電話番号や市のホームページを書いておいて、そこに問い合わせてもらう形でもいい。そういう欄を作っておいて、別冊もQRコードでそこにいけるようにするのもよいのではないか。

坪井委員

11ページの「自分で財産の管理ができないときに管理をお願いしたい人」というと、お金だけでなく土地などいろいろなものが入ってくると思うが、ここは財産ということではないか。

坪川委員

ここは悩ましいと感じており、書くことが悪いということではないが、「お願いしたい」と書いたとしても、お願いされた方は直接お願いを受けているわけではないから責任の所在がはっきりしないし、逆にそこに書いてあるのだからといって過大解釈してしまう身内が出てくるかもしれない。トラブルの種になったりするのではないか。介護そのもののニーズとして、ある程度お金のこと等をしっかりしたいならば、それに沿った必要最小限のことを書くような形に手直ししたほうが、トラブルは少ないのではないか。

岡 部会長

もう少し柔軟性を持って、例えば「緊急連絡先」も家族あるいは親類になるかもしれないしそうでないかもしれないということも踏まえて考えていいかもしれない。将来的には変えていくかもしれないと方向性を考えながらしっかり決めなくてもいいと思う。

そういう意味では、「緊急連絡先」等々に関しても、自分が確認できなくなったとき、意思を表明できなくなったときに誰に委ねるのか、自分が意思表示できないときにどうしたらいいのかということ、誰に委ねるのかすぐに思い浮かばなくてもいずれ表明してもいいのではないか。

河西委員

「日常生活等チームまとめ意見」を作成した。書くと堅苦しいところや、まだ自分であまり判断できないところが出てくるのではないかという意見があった。①にあるように、例えば介護とか医療とかという前に、あなたの希望や思い、大切にしていることはなにかという感じで、楽しみにしていることや希望、最後まで自宅で過ごしたい、友達と過ごしたい、最後までトイレは自分でしたい等、堅苦しいことの前に自分がこれからこうして生きていきたいのかということを楽しく想像できるようなことを書いていくところを1つ作っていき、そこから、動けなくなったときに医療はどうしよう、介護はどうしよう等というふうに膨らめていったほうがいい。書いていて重苦しくなり疲れてしまうと思うので、楽しいところもあった方がいいのではないか。

遠方に住んでいる家族等が顔を合わせてお父さん、お母さんが最後どう逝きたいか話し合いができなかったときに、これを見ると「お父さんはこういう希望でいたのだな」というのを目で見てわかり、家族での話し合いのきっかけになればよいと思う。

成島委員

先ほどの日常生活チームで話題に上がった、「自分の基本情報」のところに「家族の情報」を入れたいという意見だが、それはどのような情報か。例えば連絡先であれば「緊急連絡先一覧」の1、2、3とどういう位置づけになるのか、教えていただきたい。

河西委員

「家族の情報」のところは、お子さんや配偶者はわかると思うが内縁の方がいるかもしれない。本来の家族をここに書いてもらうが、中には家族には名前があるが緊急時にはこの人には連絡してほしくないという人もいるので、「緊急連絡先」とは異なる感じで本人の息子、娘くらいあったほうが分かりやすい。

岡 部会長

引き続き、ネット上で意見交換をお願いしたい。

(閉会)

■会議録確認署名

「令和5年度 静岡市在宅医療・介護連携協議会 第3回エンディングノート
作成部会 会議録」について、内容を確認しました。

静岡市在宅医療・介護連携協議会 エンディングノート作成部会 部会長

氏名 (署名)

岡 真一郎